

広報

じんけん

編集・発行／川西市人権推進課
〒666-8501 川西市中央町12-1
☎ 072-740-1150
FAX 072-740-1151

～ 出会い 気づき 発見 ～

人権擁護都市宣言・非核平和都市宣言のまち

12月4日から10日は人権週間です

※12月10日は
世界人権デー

～だれもが幸せを感じるまちをめざして～

人権週間・世界人権デーとは

昭和23年(1948年)12月10日、第3回国連総会で初めて人権の保障を国際的にうたった「世界人権宣言」が採択されたことを記念し、12月10日を「人権デー」と定めました。日本では、この日を最終日とする、毎年12月4日～10日を「人権週間」として位置づけ、全国各地で人権に関する啓発活動を行っています。

川西市では、この「広報じんけん」をはじめ、「人権週間映画会」や「人権作文コンテスト」、「人権フォトコンテスト」などの啓発事業を実施しています。

人権擁護都市宣言のまち

川西市では、平成3年(1991年)2月28日に人権擁護都市宣言を行い、「川西市人権行政推進プラン」にもとづき、人権行政をすすめています。

しかしながら、現社会では、新たに「新型コロナウイルス感染症」に関連した差別やインターネットやSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)上での差別的な書き込みなど人権侵害事案が生じてきています。

市では、今後も差別のない、だれもが幸せを感じるまちづくりをすすめていきます。

人権週間 -特設人権相談の実施-

12月3日(金)13時～16時 市役所(202会議室)

※人権擁護委員がお受けします。

予約優先 人権推進課 ☎072-740-1150 まで

人権週間映画会



12月4日(土)

入場無料

ところ みつなかホール 定員 各480名

※ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。
※当日先着順 入れ替えなし

おいしい家族

字幕付 2019年 日本 95分

上映時間 ①10:30～ ②14:35～



「実家に帰ると父が母になっていた。」

映画監督、作家として活動しているふくだももこ監督が自身の短編映画「父の結婚」を長編化。母の三回忌で離島に帰郷して父の再婚を知らされた女性が、驚きながらも島の住人たちの大らかな生活を通じて、自分らしさを発見していく過程をとおして新しい家族のカタチを描く。主演は松本穂香。

(C)2019「おいしい家族」製作委員会

僕が跳びはねる理由

日本語吹替え 字幕付 2020年 イギリス 82分

上映時間 ①13:00～ ②16:25～



「普通、とは何か?を問いかける」

会話のできない自閉症という障がいがある作家 東田直樹が13歳の時に執筆し、世界30か国以上で出版された大ベストセラーのエッセイをもとに映画化された感動のドキュメンタリー作品。わずか13歳の少年が紡いだ言葉が海を越え、今もなお世界中の自閉症者とその家族たちに希望を与え続けている。

(C)2020 The Reason I Jump Limited, Vulcan Productions, Inc., The British Film Institute

※当日は、新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いします。状況により定員を変更する場合があります。HPはこちら



人権作文コンテスト 入賞作品

最優秀賞

東谷中学校3年 田畑 沫葵さん



『心配せんと長生きしてや!』

「しづぎ、よう来たなあ。」

そうやって笑顔で、玄関まで出迎えに来てくれたのはいつまでだったか。背すじをピンと伸ばし、車の運転までこなす、本当に元氣な曾祖母の姿が僕の頭の中には鮮明にあるのに、実際に会う曾祖母は、全く違う人になってしまったようで、最近の曾祖母の姿に正直戸惑っていました。

曾祖母は八十七歳で、三年前に椅子から転がり落ちて軽い怪我をしてしまいました。その怪我は大したことなかったのに、その頃から認知症の症状がはじめて、症状は少しずつ進み、今では同居している祖父母に介護してもらいながら生活しています。

トイレにも一人で行けず、度々漏らしてしまうので紙おむつだし、お風呂にももちろん一人で入れないので、祖母が介助しています。

一番ショックだったのは、トイレに間に合わず、ベッドに大便を漏らしてしまつたと聞いた時です。曾祖母はどんな気持ちなんだろう、恥ずかしい気持ちだろうか、それとも、悔しいのか、辛いのだろうか。それに、片付ける祖母の気持ちはどうだろう、自分の子どものシーツを洗うのとは違うだろうし、祖母は何も抵抗はなかったのだろうか。僕はそんな事ばかり考えていました。

僕の考えが間違っていたと気付いたのは、介護士をしている叔父と話をした時です。叔父は、「おばあちゃんはおかしいそんなんじゃないで。うんこもおしっこもちゃんと出ることば元氣な証拠やし。みんなの力を借りて楽しく生きてるんですよ。」

と話してくれました。僕は自分の考えが根本から間違っていることに気付きました。一人でトイレやお風呂に行けない事がダメなことだと思わずに、

今年度は、まだまだ厳しいコロナ禍が続く状況ですが、多くの小・中学生の皆さんから応募いただきました。その中から入賞されました3作品をご紹介します。



今の大ちゃんは、元氣いっぱいいつも暴れていて、イタズラに私は時々おこっています。四才になる前に歩けるようになりました。まだ話すことはできないけれど、表情はとても豊かです。私の言っていることがわからないから、宿題をしてもじやまをします。そういうときは、おこります。体はまだ小さくて、十ニキロくらいありません。気持ちが言葉で伝えられず、大ちゃんがどうして泣いているのかわからないときがあります。そういうとき早く話せるようにならないかと思えます。赤ちゃんみたいな大ちゃんですが、私にとっては障がいのある弟というよりも、手のかかる弟というだけです。

先日、神奈川県「津久井やまゆり園」で起きた事件のしよ細を知りました。私はそれを知ったとき、障がいのいる家族の気持ちを考えました。犯人は意思でできない重度の障がいの者不幸かつ不要な存在であるため、重度障がい者を安楽死させれば世界平和につながる」という思想を持っていたそうです。そんな考え方の人に、弟を殺されると思ったら、すここわくなりました。こんな事件は絶対に起きてほしくありません。

何より、この犯人の考え方はまちがっていると思います。犯人だって、病氣や事故で障がいの者になることがあるからです。大ちゃんみたいに生まれて障がいがある人だって、好きで障がいの者になった訳ではありません。障がいの者であることをかわいそうと言っている人はいるけれど、全然そんなことないと思えます。大ちゃんは毎日楽しく生きているし、そんな姿を見ていると私もうれしくなります。けんかもあるし、あまえてきてかわいいときもあるし、障がいがあってもなくてもいいしよだと思えます。

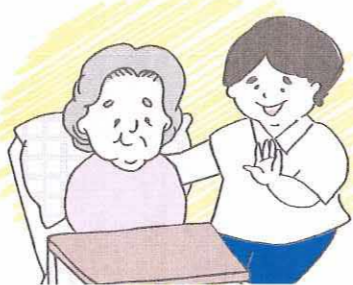
人にはそれぞれ思うことがあって、この犯人のような考えをいいことだと思おう人が、世の中には



である、と知らず知らず思っていたのです。恥ずかしかつたかな?などと心配しているような、優しく寄り添っているような気持ちは、それは曾祖母と祖母からすると上から目線の、とても傷つく気持ちだったに違いありません。

高齢者への差別と聞いてイメージするのは、虐待や高齢者への偏見です。僕はそんなことは絶対にしないという自信がありました。でも、今回のことで、僕も高齢者に対する偏見を持ってしまうことに気付いたのです。一人で何もできず恥ずかしいだろう、辛いだろう、それは僕たちの勝手な決めつけであり偏見です。

今、僕の頭の中は、今度曾祖母に会ったら何の話をするかな。テレビも一緒に見たいな。ご飯も一緒に食べよう。という前向きなことばかりです。今の曾祖母を昔と比べて、戸惑っていた僕とは違います。少しでも多く曾祖母と楽しい時間を過ごせたらいいなあ。と思います。だから、おばあちゃん、何も心配せんと、長生きしてや!



優秀賞

多田小学校6年生 柴田 桃花さん



『私の思うこと』

私には、もうすぐ五才になる弟がいます。名前は大ちゃんです。生まれる前からじん臓の病氣があり、大学病院で生まれ、生まれてからも一月以上入院していました。大ちゃんには、病氣以外にダウン症候群という障がいもあります。大ちゃんがまだ入院しているときに、せん色体の検査の結果をお父さんとお母さんといっしょに病院で聞きました。ダウン症は、せん色体の二十番目が本当は二本のところ、生まれつき三本あるらしく、二十一トリソミーともいうそうです。そのときお医者さんが見せてくれたせん色体の結果の写真を、私は小さかったので、「なんだか虫みたい」と言ってしまうました。みんなで大笑したと、お母さんがよく言っています。そのときガラス越しに見た大ちゃんは、鼻からミルクを入れるチューブがありましたが、とってもかわいくて、ぶつうの赤ちゃんに見えました。

優秀賞

けやき坂小学校2年 千田 琴音さん



『わたしのおとうと』

わたしには三つ下のおとうとがいます。おとうとは、もう四さいなのにしゃべれません。しゃべれないので、わたしとケンカすると、「あー!」とか、「イヤー!」

と大きなこえを出します。そのとき、まわりの人がじーっと見てくるので、なんでもかかと思えます。わたしは、すつとおとうとといっしょなのでしゃべれないのを知っているけど、知らない人は、へんな子だと思っているのかなと思えます。

きんじょのお友だち二人とあそんだとき、男の子がおとうとにむかって、「バーカ。」

と言ったことがあります。すぐ、その男の子のおねえさんが、「そんなこと言ったらあかん!」

と、ちゅういしてくれました。

わたしは、うれしい気もちになりました。

おとうとがしゃべれるようになったら、しりとりができるのになと思えます。早くしゃべれるのをいっています。



今年で戦後76年を迎えました。市では、戦争の記憶を風化させないために、昨年に引き続き、戦争にまつわる体験談や戦時中の記憶・思い出を募集した結果、14名の市民の方から作品の応募がありました。今回の紙面では、そのうち3編をご紹介します。

全14編は、市ホームページに掲載しています。



太平洋戦争の戦時下——中学3年間——

自川 孝道さん (92歳)

当時は国民学校と呼ばれていた小学校。毎朝登校時に学校の門を入ると先ず奉安殿(ほうあんでん)に最敬礼、次に二宮金次郎の銅像に礼をして、教室に入る。国民学校6年生の12月、英米に対し宣戦布告(1941年12月8日)太平洋戦争が勃発した。

1942年(昭和17年)奈良県立郡山中学校入学、1学級50人4組編成であった。入学後、最初の行事は桃山御陵参拜。戦争に対する教育の基本を学ぶ。戦争は聖戦であり、日本は神国。戦争に負けたことはない。

1943年(昭和18年)中学2年、英語は敵国語であり、授業短縮する。軍事教練が始まる。配属将校が2名常駐。1名は将校、1名は兵卒上がりの万年少尉でタタキ上げの軍人。授業が終わるや否や一斉に運動場に整列、教練(2時間)を週3日行う。訓練中笑えば「口を開けろ」と命令され、砂を食わされる。月1回は野外行軍で模擬銃を肩に1日歩く。配属将校は自転車で行、指揮。年2回夜間行軍訓練。早朝帰宅、朝食後再び学校へ。

……(中略)

中学3年生。1944年7月15日 学徒勤労動員令発令、国鉄関西線郡山駅を出発名古屋へ。
三菱電機名古屋製作所に勤務となる。

……(中略)

始業AM8時終業PM4時。照準器の試作から始め、飛行機の部品など製造。各職場の指導員から作業の説明、指導を受ける。トイレなど職場を離れる時は、必ず報告。担任の先生が一日数回、状況チェックに巡回される。作業能力が向上するに従い、工場で使用する旋盤、フライス盤、ボール盤など工作機械の性能を理解、高性能製造機械は、すべてアメリカ製かドイツ製に気付く。日本製ではオシヤカになる。こんなことで戦争に勝てるのかしらと疑問をもつ。

寮の食事は、豆かす、大豆、コウリヤン入りのいづれかのご飯、大根入りの味噌汁、総菜一品。空腹でも辛抱。面会日の父兄差し入れでどうにかつなく。その総菜も暫くするとイナゴのフライばかり

が、毎日出され、辛抱堪らず、その

イナゴを机に並べて「イナゴハイヤダ」と字を書く。……(中略)

1944年12月13日、B29、90機による名古屋大空襲、名古屋北部、三菱発動機爆撃される。当日は、夜勤明けで、寮で就寝していた。翌日の朝、出勤してみると、それまで毎日聞こえていた隣接する三菱発動機の試験稼働音が、ピタリと止んでいた。工場稼働停止の様相。その後、工場に派遣されていた奈良の中学生徒8人が犠牲となったと聞く。……(中略)

事態の深刻化に伴い父兄会が、学校に強く帰郷を要請。5月に10か月ぶりに帰郷。自宅から通学。近くに柳本飛行場があり、度々敵機来襲。作業を中止して避難することしばしば。幸いに爆弾投下は、なかった。



大阪第二次大空襲

桐本 晨子さん (88歳)

一億総力戦 一億玉砕。市民の生活は、隣組の歌「トントンとんからりつと隣組……助けられたり助けたり」にある通り隣組が基盤であった。隣組単位で焼夷弾の爆撃に備えてバケツリレーの訓練、また、米軍の本土上陸に備えて「竹槍戦術」の訓練が始まる。これでは戦争に勝てるわけではないと、口には出さないが、皆思っていた。

原子爆弾、8月6日広島、8月9日長崎に投下。「高性能爆弾で空中爆発する。強い光を放つので、白いシーツを着用して避難せよ」と報道。

1945年(昭和20年8月15日)ボツダム宣言受諾。太平洋戦争敗戦！終結。

学校再開。先ずは敵国語として2年間しか習わなかった英語の勉強を、1年生教科書から始める。

※ホームページには全文を掲載しています。

昭和20年3月13日、戦時の緊張の中、明日は小学校の卒業式。子ども心に楽しみにしていた。その日の夜も空襲があるかわからない。すぐに逃げられる服装をして床についた。9時頃、警戒警報のサイレンが鳴った。すぐさま、空襲警報のサイレンに変わり、今迄きいた事がない唸る様な響きが長く長く続いた。いつもと何かが違うと直感した。頭巾をかぶり防空壕に走った。1時間経っても警報は解除にならない。だんだん不安が募ってきた。2時間ぐらい経った頃、轟々(ごうごう)と物凄い上からの音。そして地上からの跳ね返りの地響き。壕の中で「今死ぬ今死ぬ」と隣の姉と固く固く手をつないでいた。壕の中では誰一人声を出さず9時間恐ろしい時間を過ごした。3月の壕の中は冷える。眠たい、喉が渇く、おなかが空いた、用を足し

たいの望みは一切思えなかった。編隊が頭上を通り過ぎると息を止めていた事に気付くのである。ホッとする間もなく、また編隊が頭上に飛んで来る。やっと朝6時、警報解除のサイレンが鳴った。

「助かった。」

壕の戸を父が開けると真白な粘り気のある煙が壕の中に入り込まれる様に入ってきた。庭の周りは煙でよく見えない。

家が焼けていなかったのでホッと

た。しかし庭越しの看護婦寮が焼けていた。外の空気



はあらゆる物が焼けた匂いで喉が痛い、息が苦しい。足下は煙でよく見えない。よく見ると焼夷弾の外枠が落ちていた。恐ろしい思いをしながらも卒業式があればの想いが時々頭の中をかすめる。少し落ちついた頃、親に告げず学校に行ってみた。誰一人いない。少し待ってみたが人が来ないので遠まわりして友達の家へ寄ったが門柱だけが立っていた。屋前に黒い雨が降り庭は黒くヌルヌルで歩けない。雨が止み、空を見ると全体が灰色、太陽が薄い桃色で裸眼でばやけて見えた。これからどうなるのか暗然とした。

この第一次大空襲から8月14日の第8次大空襲迄、50数回の空襲があった。暑い8月、壕の中はむせる。或

母の遺志を継ぐ父の戦没状況調査

川口 正浩さん(83歳)

私は昭和13年に生まれた戦中派である。

父市次は、昭和17年2月18日呉鎮守府(くれちんじゅ)第三特別陸戦隊員として呉港から出港したが、その直前の家族との面会が今生の別れとなった。

太平洋戦争末期の昭和20年7月3日、姫路市の2回目の空襲で被災して、母子3人は神崎郡田原村(現福崎町)へ疎開した。

母は、昭和22年から田原(現福崎)保健所へ奉職し、戦後の混乱期を乗り切り、二児の子育てを完遂して、昭和46年、同保健所を退職した。その後、24年間、私たち夫婦(正浩、登美子)と現在地(向陽台)で同居した。

母は昭和51年4月、亡夫の33回忌法要を済ませた頃より、夫の最後の消息を求めてブーゲンビル島の生存者宛に芋づる式に手紙を出す等していたが、思わしい情報は得られてはいなかった。

平成5年4月、念願の50回忌法要を済ませて「もう思い残すことは無い」と晴れやかな顔で言っていたが、その頃、新聞紙上で「ブーゲンビル島交友会」の存在を知り、亡夫の手掛かりを求めて、その例会へも参加するようになった。

平成7年11月14日、私が前月に受験していた「中小企業診断士試験」の合格発表があった。同日夜、母が「良かったね」と労いの言葉をかけてくれたのが、母との最後の会話になった。

私は、母の遺品整理をしながら、ごく自然に母の遺志を継いで父の戦没状況調査をやるうと決意したものの、本格的に行動を開始したのは、母の死後、10数年後のことであった。

平成18年2月、「東部ニューギニア慰霊友好親善訪問団(日本遺族会主催)」に参加したが、その際は、治安上の理由でブーゲンビル島へは上陸できず、機上遙拝(ようはい)のみが行われた。

平成21年11月、「ビスマーク・ソロモン諸島慰霊巡拝事業(厚労省主催)」に参加した際、随行の厚労省係官から海軍履歴原票による個人調査票の提供を受

る日、壕の中で聞いた事のない音が頭上から流れた。焼夷弾でなくまさか爆弾かと思った。その音は金属性でヒュルヒュルという音だ。近くに落ちたらしくユツサユツサと壕が揺れた。近鉄南大阪線二つめの駅で線路が2本、20米(メートル)くらい天を突いていた。近くの家は屋根が落ち家の中が見えた。また、阪和線の一つ目の駅で石垣が崩れていた。

3度目の爆弾は原子爆弾の模擬爆弾であった。見当つけて3キロ位を猛暑の中、見に行った。大きな大きな深い挿り鉢(すりばち)型の穴が空いていた。周囲の家は跡形もなく恐ろしい惨状であった。帰りはショックで足は重く喉はカラカラであった。

け、次の通り父の戦没状況の詳細が判明した。

・戦没地 ブーゲンビル島ブイン

・戦没日時 昭和19年5月1日12時50分

・戦没状況 敵機来襲により退避中、直撃弾により負傷(前頭部盲管爆弾破片創脳損傷)

次いで、平成24年5月、「山本長官機探索の旅」に参加して、初めて父の終焉地(しゅうえんち)ブーゲンビル島南端のブインを訪れることが出来た。

我々一行は、まず墜落現場に現存する山本長官機に拝礼を済ませ、その翌日、父の駐屯地近くのブイン海岸で、当地で散華した父達4万人余の英霊の慰霊祭を執り行った。

かくして、3回のブーゲンビル島慰霊訪問により、父の戦没状況について正確な事実が判明し、何よりも父の70回忌法要を、その終焉地で執り行うことが出来て積年の思いが叶った。



2021年 川西市総合センターは 創立41年目をむかえました!



〒666-0032川西市日高町1-2 TEL 072-758-8398

川西市総合センターの誕生は…

川西市では、※**同和問題**の早急な解決をめざすため、1977(昭和52)年に川西市同和対策審議会を設置し「川西市における今後の同和対策の基本的方策並びに具体的方策」について諮問し、1978(昭和53)年には同審議会の答申が市長に提出されました。

この答申の趣旨にそって、基本的人権尊重の精神に基づき、住民の社会的、経済的及び文化的生活の改善向上と同和問題の速やかな解決に資するため、総合的なコミュニティーセンターとして、児童の健全な育成を図る機能を付加した「川西市総合センター」が、1980(昭和55)年11月1日に誕生しました。川西市総合センターは、川西隣保館と川西児童館の複合施設です。

※同和問題

同和問題(部落差別)とは、日本社会の歴史的過程で形づくられた身分差別により、日本国民の一部の人々が、長い間、経済的、社会的、文化的に低い状態に置かれることを強いられ、同和地区と呼ばれる地域の出身者であることなどを理由に差別を受けるなどしている、我が国固有の人権問題です。しかしながら、今なお、こうした人々に対して差別的な内容の文書が送付されたり、インターネット上で差別を助長・拡大する内容の書き込みや投稿が行われたりするなどの事案が発生しています。

相談事業

- 「子育て相談」 毎週 月～金曜日 午前9時～午後5時(電話相談可)
- 「生活人権相談」 毎週 月～金曜日 午前9時～午後5時
- 「保健相談」 毎月 第1木曜日 午後1時30分～3時

- 「セクシュアル・マイノリティ相談・学習会」 毎月 第4木曜日 午後1時30分～4時(電話相談可) 事前予約の方優先



川西隣保館

【けんけんひろば】

学校の学習(自学)や人権に関する学習(学び)に取り組みます。

- 小学生コース 毎週火・木曜日 午後4時30分～5時30分
- 中学生コース 毎週火・木・金曜日 午後6時～7時30分



【よみかき教室かわにし】

にほんごの読み書きや漢字を学びます。さまざまな国の人がいっしょに学んでいます。毎週金曜日 午後1時30分～3時



【人権ビデオ上映会】

- 子ども向け 毎月第3水曜日 午後3時30分～
- おとな向け 毎月第3金曜日 午前10時～、午後1時～、午後4時～



- 【人権啓発パネル貸し出し】
- 【人権ビデオ教材貸し出し】
- 【人権出前教室】

地域や学校での人権啓発学習のお手伝いをします。ご利用ください。



【夏休み子ども教室】

〈事前申し込み〉小学生対象の教室。科学実験教室やバスボムづくり、プログラミング教室など。



今、こんなことしています!みなさん!
総合センターにおいでください!

川西児童館

【1さいのひろばONEだーらんど】

毎月1回実施(事前申し込み) 1さいの子どもと保護者のひろば。親子ふれあいあそび、自由あそび、絵本タイムなど。



【親子で遊ぼうDAY】

毎月2回実施(事前申し込み) 1さいから3さいの子どもと保護者のひろば。親子ふれあいあそび、自由あそび、絵本タイムなど。



【オンラインおしゃべり会】

毎月2回実施(事前申し込み) Zoomを使って、センター職員とおしゃべりしましょう。今気になっていること、聞いてみたいこと、何でもいいです。



【オンラインおうちでたんぼぼくらぶ】

年4回実施(事前申し込み) 2さいから3さいの子どもと保護者でZoomを使って、親子ふれあいあそびやおしゃべりを楽しめます。



【あそび場開放】

遊戯室・体育室 就学前の子どもと保護者、小学生に開放しています。



図書室や交流サロンなど自由に使えるスペースもあります。



ユニバーサル デザインとは?

「年齢や能力、状況などにかかわらず、デザインの最初から、できるだけ多くの人を利用可能にすること」が基本的な考え方です。デザイン対象を障がい者や高齢者に限定していない点が「バリアフリー」とは異なります。

ユニバーサルデザインは、Universal=ユニバーサル(普遍的な、万人の、万能の)とDesign=デザイン(設計、構想、計画)という2つの英語が合わさったもので、そのアルファベットの頭文字をとって「UD(ユーディー)」とも呼ばれています。

このユニバーサルデザインを提唱したのは、ノースカロライナ州立大学(アメリカ)のロナルド・メイスという人で、自身も身体に障がいのある彼は、1980年代、それまでのバリアフリーの概念に代わって、ユニバーサルデザインを提唱しました。



7 ユニバーサルデザインの原則

1 公平性
誰でも使えて
手にいれることができる

2 自由度
柔軟に使用できる

3 単純性
使い方が簡単にわかる

4 わかりやすさ
使う人に必要な情報が
簡単に伝わる

5 安全性
間違えても
重大な結果にならない

6 省体力
少ない力で効率的に、
楽に使える

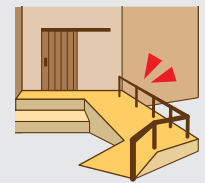
7 空間・場所の確保
使うときに
適当な広さがある

なぜ、今「ユニバーサルデザイン」が求められているのか

わが国では、急速に高齢化が進んでいます。それに伴って、ハンディキャップがある人も増えていくと予想されます。そこで、はじめからすべての人の使いやすさや、わかりやすさに配慮した「ユニバーサルデザイン」の考え方がより重要となってきています。

ユニバーサルデザインの一例

- 自動ドア… 誰にでも簡単に使用できる自動ドアはユニバーサルデザインの代表例といえます。
- 歩道や公園出入り口の段差解消
- 多機能トイレ
- 音響・時間表示信号機
- ピクトグラム(絵文字) … 東京オリンピックの時も各競技を表したものが注目を集めていました。
- UD書体(文字)… 弱視の人にも読みやすい字体



原則4 使う人に必要な情報が簡単に伝わる(わかりやすさ) ⇒ 『やさしい日本語』

近年は、在住外国人の人たちも年々増えてきています。その中で、「日本語」は、多くの言語の中でも特に難しいと言われていています。また、付け加えて「カタカナ語」、「外来語」も頻繁に使われるなど(※特に、この間、コロナ禍、関連のカタカナ語の発出は顕著です)、在住外国人に限らず、わかりづらさが増えています。情報伝達は、特にわかりやすい日本語を意識して使うことが求められています。

やさしい日本語の一例

- 記入する → 書く
- ご用件は何ですか? → どうしましたか?
- 食後 → ごはんを食べた後 など



コロナ禍関連のカタカナ語の一例

- ロックダウン(lockdown)… 封鎖・閉鎖
- クラスター(cluster)… かたまり、集団
- オーバーシュート(overshoot)… 限界を越える、行き過ぎ
- ステイ・ホーム(stay home)… 家に居る、在宅
- ソーシャル・ディスタンス(social distance)… 社会的距離 ソーシャル(社会的な)ディスタンス(距離)

※注:人と人との距離を保つという意味合いで使うのであれば、「ソーシャル(社会的な)」ではなく、「フィジカル(身体的な、物理的な)ディスタンス」などが本来的に近い言い方とされています。「社会的な」距離という言葉では、本来の意味とは違った差別的な意味合いで解釈されることもあるという意見もあります。

情報格差と人権

性別や年齢、障がい、人種、民族などを理由とする差別はさまざまありますが、IT・デジタル化が進む現代において、情報格差(デジタルデバイド)は、個人の利益や暮らしの質、命にまでかわる大きな課題となっています。

IT化、デジタル化 社会の急速な進展

デジタル(モバイル※小型で持ち運び可能、持ち運び中に操作可能な電子機器)機器等の使用(方法)はもとより、その機器(通信インフラ含む)自体の所有、併せて、そこで使用される「ことば」(※カタカナ語の多用など)でついでいけない情報弱者(障がいのある人、高齢者、貧困家庭など)の発生

必要な情報を「得にくい(得られない)。

いのちを育んでいくうえで、結果として大きな格差が生まれる。

人権の視点からも軽視できない問題



第12回

令和3年度

人権写真フォト

コンテスト in かわにし

入賞作品介绍

テーマ「**続コロナ禍**」

「今度いつ
帰って
来てくれる？」

優秀賞

塩田 敦子 さん(久代)

夫が単身赴任で引越す前日の写真です。最近下の子が、友達が「僕のお父さん、リモートでずっと家におるねん!」て話すのを聞き涙が出そうになったと教えてくれました。



最優秀賞

「はじめまして」川中 彩 さん(けやき坂)
祖母は施設で療養中で、コロナの感染予防のため直接会うことはできませんでしたが、職員の方のお気遣いで窓越しに息子と初対面することができました。



「ちっちゃな
お兄ちゃん」
金谷 有美 さん(緑台)

佳作



「仲良し姉妹」
近藤 雅也 さん
(萩原台東)

佳作

北朝鮮人権侵害問題啓発週間(12月10日~16日)

~北朝鮮当局による人権侵害問題に対する認識を深めよう~

拉致問題は、我が国の喫緊の国民的課題であり、この解決をはじめとする北朝鮮当局による人権侵害問題への対処が、国際社会を挙げて取り組むべき課題とされる中、この問題についての関心と認識を深めていくことが大切です。

啓発パネル展示

① 川西市役所 市民ギャラリーにて
(12月13日~17日)

② 川西市総合センター
(令和4年1月17日~21日)

※北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ「めぐみ」、「ただいま」~の声を聞くために~のDVDを貸し出しています。(人権推進課)

クイズ

次の空欄(○の中)をうめてください。

- ① 12月10日は、「世界○○デー」
- ② 「心配せんと○○きしてや!」は、今年度の人権作文コンテストの最優秀賞の題名でした。
- ③ 今年度の人権週間映画会の洋画の題名は、「僕が跳びはねる○○」

※クイズ正解者には、図書カード(1,000円分)を5人に差しあげます。
(正解者多数の場合は抽選。図書カードの発送をもって発表にかえさせていただきます。)

応募方法

ハガキに①クイズの答え、②住所、③名前、④年齢、⑤電話番号、⑥今回の広報じんけんで興味があった記事と感想を書き、下記あて先まで

あて先

〒666-8501 川西市人権推進課「クイズ」係

締切

令和3年12月15日(水)消印有効

毎月第3金曜日は、川西市の人権デーです